

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

NPO法人

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第34号 発行日2005年11月15日

Contents

10地点に支部を。札幌フォーラム	1
福川氏講演、武部幹事長メッセージ	2
石井氏ら講演、コンサドーレ札幌(児玉)	3
霞が関情報(柴田審議員)	4
観光人国記(高橋知事、布村さん)	5
観光人国記(河内山柳井市長)、海の駅	6
スポーツと観光(スキー)、橋元随想	7
立教支部(北海道)、東山魁夷記念館	8
二つのツーリズム、COLUMUN	9
お得な情報(旭山動物園、日本昭和村)	10
NPOから提言、あめりか観光通信	11
気象・天気の話、会員名簿	12



雪明かりに浮かぶ札幌の時計台。裕次郎が歌い旅情を誘う。

巻頭言

10拠点結ぶ「都市・観光・環境」情報網整備へ

来年は東北、四国、中国にもJN支部設立を予定

11月8日の北海道支部設立記念フォーラムは空前の盛況



JAPAN NOW観光情報協会(松尾道彦理事長)は、来年1月以降の活動計画案として東北(仙台)・四国(高松)・中国(広島)支部を開設して全国展開を進めていく。今年11月には7番目の支部として北海道支部が札幌市に設立

され、国内の主要経済圏として東北・四国・中国地区が未開設となっている。観光立国に取り組むJN協会は今後、本部と全国10ヵ所の支部を結ぶ「JAPAN NOW都市・観光・環境情報網」(仮称)をつくり国、地方自治体、民間企業による新規事業を展開する計画。(写真は、松尾理事長)

これは政府と自治体が進める三位一体の改革に伴う地方自治体の権限強化、将来の「道州制」導入やすでに始まっている経済ブロック圏単位での行政・業界による大観光連盟の発足などに備えるためだ。

また中部・北陸支部の合同イベントは、来年2月10日からイタリアのトリノで開く冬季五輪大会のあと同市市長を日本に招き、松原・名古屋市市長、山出・金沢市長らによる日伊国際交流フォーラムを計画している。JN協会の平成18年度の事業計画及び事業予算などを5月の定時会員総会へ提出、承認を受ける。来年は理事、監事の改選期に当たるため、理事会に原案を提案して検討することになっている。

(事務局長 白澤照雄)

北海道支部設立総会に310人集まる 福川、石井氏らの講演が好評

11月8日札幌市の「ホテル・ライフオー・札幌」で開いたJN協会北海道支部設立総会、これに続く『21世紀は大北海道圏の時代(観光フォーラム in 札幌)』には、関係者ら310人が参加した。



支部長に、坂本眞一・JR北海道会長(写真)を選任したあと、松尾理事長、共催の北海道観光連盟会長の我孫子氏らが挨拶。引き続いて、北海道知事の高橋はるみ氏ら4人の来賓が挨拶した(知事の挨拶は4面に)。

講演に先立ち、武部勤・自民党幹事長、藤野・参院自民党副幹事長の祝電が披露された(武部幹事長の祝電は、次ページに)。

講演内容は、2、3ページで紹介。主催者挨拶、来賓挨拶は省略させていただきました。



「産業と文化の融合」、北海道で！ 福川伸次電通顧問（元通産事務次官）



観光問題にも深い造詣を有する福川氏は、まず「私の話は、3つのメインディッシュの前の前菜」と満員の聴衆を笑わせ、一気に引き付けたあと、本題に入った。以下は、その要旨である（文責・加納JN協会編集長）

ARTSという英語には、芸術と技術の二つの意味がある。欧州文化は、産業技術と文化的表現が一体となって花開いたのだが、日本の伝統工芸品などは、そう言える。最近ではIT関連、アニメなど、日本が世界に進出している分野は、そうだ。アルビン・トフラーが1968年に出した本で、文化が産業に大きな力を果たすようになる、と指摘しているが、これから、ますます「産業と文化の融合」が日本の経済を引っ張っていく時代になる。

そして、日本にとって重要なことは、社会の質を高め、経済を発展させ、日本のブランド力を高めていくことだと思う。

このことは、観光促進にも重要なポイントだ。

3つの要素、という。「CCI」つまり、コンテンツ、コミュニケーション、インフラストラクチャー。まず、コンテンツ。伝統的な文化もそうだが、ITを駆使した新しいコンテンツも重要だ。最近のイギリス、ドイツ、フランスなど、イベントを含め新しい「まちづくり」に取り組んでいる。北海道にとっても、どんなコンテンツをつくるかが、大切な問題だ。

コミュニケーションは、日本人が不得意としている。国際会議の名司会者とは「インド人の口をいかにして塞ぎ、日本人の口をどう開かせるか、だ」という笑い話があるくらいだ。

インフラでいえば、北海道に新幹線が延びる。しかし、新しいもののさえできればよい、ということばかりではない。誰が何を望んでいるか把握することが大切。欧州で感心するのは、インフォメーションセンターが充実していることだ。外国人が一人で旅ができるような「ソフト的インフラ」が日本は遅れている。

さて北海道についてだが、私は大変なブランドがあると思う。だが、大事なものはマーケティングだ。イギリスは北京に130人のスタッフをおき、徹底的にイギリスを分析しアピールする。それに対応する日本のスタッフは9人、これでは対抗できない。

北海道は、「花」「食」「観光」を打ち出しているが、総合的な観光を考えるには、来道者のニーズをどう適確に捉えるかが、ポイントである。たしか

フロンティアスピリットで観光開発を

「共生・対流の21世紀」に入って

「観光立国フォーラム in 札幌」の開催を心よりお祝い申し上げます。

本年は、道民の長年の悲願であった「北海道新幹線の着工」と「知床世界自然遺産の登録」を実現することができました。これにより北海道は未来を、そして世界を切り拓くための新たな「鉄」を得ました。しかし、魔法の杖ではありません。

我々は、先人達が厳しい自然と闘いながら北海道の今日の礎を築き上げたと同じフロンティアスピリット（開拓者精神）で取り組まなければなりません。本格的な人口減少と少子高齢化の時代が到来しつつありますが、二十一世紀は「共生・対流の世紀」でもあります。北海道でも、退職時期を迎えた団塊の世代が都市圏から移住する動きが見られたり、新千歳空港の国際線利用客がアジアからの観光客を中心に六十万人を数え、過去最高を記録しております。また、オーストラリアの北海道ブームが話題を呼んでいます。

私は、夢楽（むら）づくり維新構想、都市と農山漁村が双方向で行き交うデュアルライフ（二重生活）を提唱しております。北海道づくりを進めること、それに相応しい社会を構築することが求められております。本フォーラムが、実り多きものとなり、『大北海道圏の時代』に向けた新生北海道の取組のスタートとなりますよう期待いたします。

平成十七年十一月八日

自由民主党幹事長 武部 勤

に北海道には豊かな観光資源がある。じっくり北海道を楽しんでもらうためには、何が必要か。私は、そのためには、いかにプロフェッショナルな（観光関連の）人材を育てるか、が大切であり、最初に述べた「産業と文化の融合」の道を見いだし、新しい観光資源を生み出すことも大切だと考える。

新千歳空港の国際線整備に努力

国土交通省総合観光政策審議官 柴田耕介氏

我が国の観光収支は、このところ大幅出超です。小泉首相は、2010年に外国人観光客1000万人誘致を再三強調しています。北海道でいえば、今年、新千歳空港への外国人客は東アジア中心に大幅に増えましたが、新千歳空港に国際線がもっと入ってくるような空港整備も考えたいと思っています。

北海道の観光関係者の皆さんは、それぞれの地域の特色を活かす対応を考えてください。それと、市町村の枠を超えたボーダーなしの広域観光を進めてください。

（柴田審議官のインタビューが、4ページに）

(『観光フォーラムin 札幌』内容続き)

ライトアップで夜景が観光資源に 太陽電池活用や風力発電で、省エネを実現 石井幹子さん(照明デザイナー)

「環境に優しい都市景観」というテーマ。夜景が観光資源になる実例を、ご自分が手がけた全国のスポットのスライドを見せながら講演。



石井さんによると、夜景が観光スポットになることは、北海道でいえば函館山からの市内の夜景で実証済み。ただ最近は生活の時間が拡大し滞在型の旅行も増えたことなどから、全景に加えて函館市内の歴史的建物をライトアップして楽しんでもらうケースが目立つ。「昼の景色はきれいなのに、夜は何もないところが多い」という観光客に好評だという。

満月下の大阪城、姫路城、横浜のベイブリッジ、長崎の天主堂、眼鏡橋、門司港、熱海温泉の海岸、明石海峡大橋、東京のレインボーブリッジ、世界遺産の白川郷と雪など、数々映し出された淡い光に浮かぶ姿は、まさに「ブラボー」。ライトアップされた浅草寺には、夜訪れる観光客が増え、時間延長した仲見世が賑わい始めた。

石井さんが手がけたこれらの照明は、ギラギラした原色系、スポットライト的な強い光は使わない。対象物を、ほんのり淡い光で柔らかに包む——これが安らぎ、癒しを求める現代人にフィットするのだろう。それと、もう一点は徹底的に省エネを追い求めていることだ。太陽電池や風力発電を使い省エネ機器を取り入れることで、“環境に優しい”照明を実現している。

北海道の観光と夜景について石井さんは、雪に浮かぶ白川郷の例をひき「雪は大変な観光資源。光ではなく明かりを主体に、ちょっとした工夫で大変美しくなる。雪のない国から来る人たちにとって、あこがれの地になるでしょう」と結んだ。

会場で映し出された数々の幻想的な映像が、この紙面では伝えられないのが残念である。

北海道新幹線工事、順調に進む 他の整備新幹線にキャッチアップ

北海道新幹線建設局長 菊池一成氏

北海道新幹線工事は、5月22日起工で順調に滑り出しています。全国整備新幹線のなかでも、北海道のピッチは早いのです。例えば、北陸新幹線の金沢・小松への延伸は、1985年に申請されて2014年(平成26年度)完成予定、これに対し北海道新幹線は2002年申請、2015年度完成と、ほぼ“同着”になります。



この新幹線は、新青森から奥津軽を経て新函館までですが、4分の3がトンネルで、渡島当別トンネルの掘削が始まりました。青函トンネルは、新幹線も走ることができるような設計になっており、線路の幅を新幹線用に広げる(1本余分に敷く)だけでOKなのです。

この路線が完成しますと、函館—東京間が現在の6時間から4時間10分へ短縮されます。これは、新函館で乗り換え函館に行く時間も含めてです。

新幹線効果は、盛岡—八戸間の開業で、八戸周辺や青森にかけてのお客が大きく増えています。新函館まで延びれば、札幌にかけての延伸の期待と周辺部の新幹線効果が期待できるでしょう。

地域観光ひっぱり手サッカー

北海道フットボールクラブ(コンサドーレ札幌) 代表取締役社長 児玉芳明

来年6月、第18回サッカーWC・ドイツ大会が開幕する。国内旅行業界は観戦ツアー客送り込みに、熱が入る。日本が代表の座を獲得したこともあって盛り上がりは必至だ。札幌での売り出し予定価格は6泊8日で50万円前後と通常の観光ツアーと比べて高額だが、手応えは十分と感じている。

「21世紀はサッカーの世紀」と言われ、日本でも1993年、日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)が開幕して以来、サッカー熱は高まる一方。先日の上野杯決勝戦は東京・国立競技場を4万人余で埋めた。ジェフとガンバの対戦なので、千葉、大阪から東京にきた人が多かったと思われる。

Jリーグの特長はチームを地方に分散し、地域振興を理念に盛り込んだことだ。J1、J2の30チームはそれぞれの都市名をつけ、お互いの競技場を往復して戦うホーム・アンド・アウェー方式を取っている。

サポーターはホームだけではなく、アウェーにも出かける。コンサドーレ札幌のサポーターは去年の天皇杯準決勝戦が行われた丸亀市へJALチャーター便で700人が乗り込んだ。リーグ戦でも、400人前後は出かける。

こうして30チームのサポーターが動くのだから、経済効果はバカにならない。鳥栖、新潟、鹿島など今まで観光のスポットが当たっていなかった地域にもサポーターと言う名の観光客が訪れる。国内ではまだ40チームがJ参入を目指す。より地方色が強いチームだ。サッカーJリーグが地域観光を引っ張ると言えないか。(この記事は、11月8日のJN協会北海道支部設立に参加された児玉氏に急ぎようお願いした)

東京 震が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

観光行政の現場は3回目

観光経済課など新しく2課の新設を要求

柴田審議官に聞く

(経済ジャーナリスト阿部和義)

8月にチェコスロバキア大使に転出した鷲頭誠氏から総合観光政策審議官を受け継いだ柴田耕介氏に抱負を聞いた。



—観光行政に携わるのは初めてですか？

「1973年に当時の運輸省に入省したときに配属されたのは観光部計画課でした。当時の観光部長は故中村大造さん。国際運輸、観光局で中村徹局長(現日本観光協会会長)の下、日本から外国に年間1千万人の旅行者を出そうというテンミリオン計画に従事しました。その後、1990年代には観光立国推進運動を伊藤忠商事の顧問だった瀬島龍三さんや国土の堤義明さんのご指導、ご協力を得て進めました。国内観光を盛んにしようという運動です。今回は外国から観光客を2010年までに1千万人にするというビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)の時代になりました。時代の変化と日本の成長を思い感慨深いです」

—審議官としての抱負はいかがですか？
「VJC運動は順調に進んでいます。地域ごとの特色を出しながら盛り上がりを実感しています。この盛り上がりを引き続き全力を上げて推進することだと思います。Visit Japan, Enjoy Japanです。ただ数を増やせばよいのではなく、外人観光客に楽しんで貰ったかどうか、問題になります。外部の目、外国人の目を通して地域の観光の向上(ブラッシュ・アップ)につなげなければなりません。民間で進めている観光ルネッサンス(再生)事業に国も必要ところに補助していきます」

—2006年度の概算要求での目玉は何ですか。

「選挙があつてばたばたしましたが、前年度27%増の48億円の要求をしています。①VJCの推進②観光ルネッサンス事業の補助③既存の社会資本の活用を含む携帯電話などITを活用した総合的な観光情報提供システムの実証実験などです。VJCでは米国、中国など重点12地域を深く耕すとともに、新しい地域の開拓をします」

—組織はいままで通りですか？
「今度の予算で観光資源課と観光経済課の二つを新設するように要求しています。観光資源課は文字通り観光資源の開発・発掘です。観光経済課は観光統計の整備と旅行の容易化など観光産業の環境作りで

す。この2課で観光部は観光企画課、国際観光課、観光地域振興課、観光事業課とあわせ6課になります」

—観光経済課は経済産業省とバッティングしませんか？

「経済産業省は製造業を基盤にしていますのでこちらとはバッティングしないでしょう。バッティングするぐらいに張り出して切磋琢磨したほうがよいと思います。自信があります」

柴田耕介(しばた・こうすけ)氏

1951年3月に熊本県に生まれる。京都大学法学部卒。73年運輸省に入省。イリノイ州立大経済学部大学院卒、ペンシルベニア大経済学部大学院在籍。ノルウエー日本大使館一等書記官、海上交通局総務課長、気象庁次長を経て05年8月に総合観光政策審議官。54歳

北海道観光連盟とJNの幹部が懇談

「観光立国フォーラムin札幌」のため札幌を訪れたJN協会の岡村副理事長、白澤事務局長らは、7日午後5時から、北海道観光連盟の塩谷専務理事、新井場事務局長、小野寺事務局次長と懇談会を開いた。阿部理事が司会を行い、まず北海道の観光事情について聞いた。

塩谷専務理事は「非常に厳しい。名古屋の愛知万博の影響を受けて夏までは対前年比で5%落ちた。9、10月でやっと前年比を上回るようになった。ホテル、旅館の価格が競争で安くなり、温泉地では2食付きで4980円という安いものまで現れた」

「外国人は価格志向で、北海道への訪問客は前年に比べて50%増えている。台湾、韓国、オーストラリアからの人が多い。オーストラリアは季節が逆になるので冬のスキー客が多い。ニセコの人気があるのは雪のせいでもある」

「旅館、ホテルはサービスを差別化していかないと生き残れない。千人以上収容するホテルが苦しくなっている。30室ぐらいの規模がサービスを変えて生き残っている。それぞれに工夫をしないとイケない時代になって来た」

みなと観光交流促進プロジェクトを実施

国土交通省港湾局は、港を観光に活用する「みなと観光交流促進プロジェクト」を、05年度は次の10港で実施すると発表した。

網走港(北海道)	世界遺産を活用
船川港(秋田県)	みなとの産業の活用
館山港(千葉県)	海辺の自然活用
福井港(福井県)	歴史的港湾遺産の活用
清水港(静岡県)	港の体験学習の活用
新宮港(和歌山県)	世界遺産の活用
鳥取港(鳥取県)	船の活用
八幡浜港(愛媛県)	体験型観光ツアーの活用
名瀬港(鹿児島県)	イベント開催の活用
平良港(沖縄)	海辺の自然活用

この事業は、政府の観光立国に協力するもので、2回目。

観・光・人・国・記

首都圏、東アジアへトップセールス
北海道観光振興、JN協会に期待する
高橋はるみ北海道知事

1976年、一橋大経済学部卒。
通産省（現経済産業省）に入り、
北海道経済産業局長等を経て、20
03年4月北海道知事。

NPO法人「JAPAN NOW観光情報協会」
北海道支部の設立と記念フォーラムの開催を、お祝
い申し上げますとともに、日頃から北海道内の観光
振興に向け、格別のご協力とご支援を賜っています
ことを、厚くお礼申し上げます。

国内経済は概して回復基調にある一方、北海道は
依然として厳しい環境にあるといわれており、そう
した中、道としては優位性のある分野として「食」
と「観光」に焦点を当て、北海道経済の再建に向け
様々な施策を展開しています。

とりわけ、本道の魅力である「花」、「食」、「体
験観光」をリンクさせることによって、北海道観光
の魅力が更にアップするよう、受入体制の整備はも
とより、私自身が首都圏をはじめ、東アジア地域な
どの海外においても直接トップセールスを行うなど
して、北海道へより多くの観光客に来ていただくよ
う働きかけをしているところです。

そうした取り組みの一環として、平成18年度は全
国JRグループ6社の協力を得て、「はなたび北海
道」のキャッチフレーズで、「花」をメインテーマ
の「北海道デスティネーション・キャンペーン」を
予定しており、今年度は6月～9月11日までプレ・キ
ャмпейンを実施しました。

この度、北海道に支部を設けられた「JAPAN
NOW観光情報協会」にあっては、JR、電力、ゼ
ネコン、航空会社など、幅広い分野から賛同を得ら
れた協会であると同い、裾野の広い観光産業の振興
を図っていく際に、幅広い見地で情報発信をしてい
ただけるものとして、大変心強く感じています。

本年5月には、永年の念願であった北海道新幹線
が、着工することができました。新幹線は北海道の
経済発展に大きな効果をもたらすと同時に、観光客
の誘致にもプラスになることと確信しております。

また、本年7月には、知床が日本で3番目の世界自
然遺産に登録されるなど、記念すべき年でもあり、
道と致しましては、引き続き、北海道の様々な魅力
を大いに引き出しながら、観光の一層の充実に取り
組んで参ります。

JN協会北海道支部の設立を期に、北海道の観光
産業がリーディング産業として更に発展することを
期待し、私からの挨拶といたします。

（11月8日、観光立国フォーラムin札幌での挨拶）

「女将」じゃなくて、「専務」だよ

札幌・定山溪の『第一寶亭留』・布村佳子さん



和服姿で客を送り迎えする、そ
んな姿を描いていたなら、ピシッと
スーツを着こなした女性が現れた。
布村佳子さん、札幌・定山溪にあ
る『第一寶亭留・翠山亭』の専務
取締役である。ご主人であり社長
の俊雄氏と5つの宿泊施設を切り盛りしている。

「寶亭留って」と聞くと、「以前は第一ホテルで
した。でも、全国チェーンのホテルの傘下と間違え
られますので、今年から改名しました。それと、ホ
テルというより、（高級）旅館のサービスを心がけ
ていますので」との返事。入り口に掲げてある高名
な書家の額から頂戴した“漢字”なのだそうです。

この『第一寶亭留』、このところ拡大し続けてい
る。同伴はともかく男性客は入れないという『翠蝶
館』は、岩盤浴とエステが売り物。倶知安町にある
『ニセコワイズ寶亭留』は、屋上からの360度パノ
ラマが絶景、北海道富士の別名がある羊蹄山が目
の前に迫る。支笏湖にある『翠山亭』は30室、隣接し
た『翠山亭倶楽部』は5室しかないがフレンチ風和
食が目玉。ここは、従業員の研修施設も兼ねており
『第一寶亭留グループ』の新しいメニューは、ここ
から生まれているという。自慢の食事は、料理長ら
が札幌市内を食べ歩き「同じ値段なら街のレストラン
、料亭に負けないように磨いています」。

「バブルがはじけ、北海道経済も落ち込んでいる
中、（拡大路線は）大丈夫ですか」と聞くと「逆手
を取っています。一流企業がリストラで手放す施設
を安く譲ってもらい、リニューアルして、それぞれ
特色のある宿にしています。それに、従業員の融通
もききますし、コストは安くできるのです」とか。
それと、俊雄社長が定山溪温泉組合の組合長を務め
ていることもあって「街を寂れさせないように」と
いう狙いもあるのだという。来年夏には富良野で企
業が手放す施設を、旅館に改装する。「リサイクル
のような感覚で、新築よりうんと安上がりです」。

今後は？。「バブル時代の団体客中心から、家族
中心、個客主体に早々に切り替えました。120室あ
った『第一寶亭留・翠山亭』を70室にリニューアル
し、4階には居酒屋風の食事処を作ったのは遅く着
いた方や泊食分離を好まれる人たちのため、です」
「これからは、十人十色といいますが、目的特化型
の宿泊施設が必要な時代になると思います。」「社
員一同、“まごころのおもてなし”をモットーに、
やすらひでいただける宿を目指します」。

今後はますます“個”の時代になるだろう。一泊
2万～3万円以上の部屋が多い、このグループだが、
道内中心にリピート客が多いという事実は、来たる
べき時代にマッチした作戦の成果かも知れない。こ
れからは首都圏などの客も狙っていくのだろう。

（白澤・加納）

観・光・人・国・記

古い街の再生目指す河内山・柳井市長
団塊の世代見据え、高齢者の住める街づくりを！

こうちやま てつろう

河内山 哲朗 氏



1958年、山口県柳井市生まれ。早大法学部卒、松下政経塾2期生。1993年、柳井市長。2005年2月、大島町との合併に伴い、新柳井市長に。全国市長会国民健康保険対策特別委員会委員長など、多くの役職にある。

山口県の東部、JR山陽本線沿いに柳井市がある。戦後間もなくして、卓球の田外選手の活躍で、1958年（昭和33年）には柳井高校が第50回夏の甲子園大会で優勝、年配の人ならよく知っている街だった。

しかし、これといった工業のない商人町だったことから日本経済の高度成長に乗り遅れ、山陽新幹線から外れた地点にあることなどから、永らく停滞が続いている。大正、昭和のはじめに3万人を超える人口を有し全国的にも大きな町だったのが、現在でも横ばいである。いわば閉塞状態にある街だった。

1993年、そんな街に34歳の若い市長が誕生した。河内山哲朗氏で、当時は全国一若い市長出現、とマスコミを賑わしたものである。

「室町時代から商人町としての伝統があり、戦災にも遭っていない街並みを生かした個性と特色のあるまちづくりに取り組もう」と訴えた。そして、ほとんど田圃だった柳井駅の南側を開発し、市役所を移転するなど車社会にあった街づくりをする一方、駅北サイドの古い街を整理して商家の白壁が映える落ち着いた雰囲気のある街を再生させていく。そんな中で、“柳井銀座”は消え去っていった。

もう一点、河内山市長が強調するのが、全国有数の温暖な気候。12月から2月にかけての日照時間は全国一、日照特異地域である。雪もほとんど積もらない。住みよさ抜群である。「天から与えられた贈り物、この気候を生かさぬ手はない」と河内山市長は同世代に呼びかけ、施設農業つまり花作り農家の育成をスタートさせた。バラを栽培する農事組合法人『ダイヤモンドローズ』は、40人の雇用を生み、全国から視察も相次いでいる。2006年4月には山口県の『フラワーランド』も、柳井に誕生する。「白壁の街と花を、全国にアピールし観光客にも来てもらいたい」と河内山市長。

「10年後には団塊の世代が古稀を迎える。車社会だけではダメで、歩いて生活できる環境を駅北つまり古い街中に造って行かなければ」と河内山市長。室町時代の“古市”、江戸時代の“新市”、明治から昭和の“亀岡”と、時代の要請に応じて繁華街は移っていく。そう遠くない将来、中心部が今の駅南から、再び駅北に移動する、とみているのだ。そして「健康で長寿の街にする、その仕組みづくりを仕

掛けている」という。

同時に残された課題として、市政の簡素化、民営化で“小さな市役所”実現を訴える河内山市長は、今が働き盛り。10年後、できれば20年後の、私が育った街の変貌を見てみたい。（加納）

青く美しい環境に深い感慨
九州の『海の駅』を訪ねて

（社）日本マリナー・ビーチ協会で、10月に長崎県内のマリナー・ビーチの視察研修会を行い、サンポート・アルパマ、サンセットマリナー、出島ワーフ、小江ボートパーク、高浜人工ビーチ等を訪ねた。当日は秋の晴天に恵まれ、長崎の海とビーチは、あくまでも青く、美しく、海に囲まれた日本列島の素晴らしい環境に深い感慨を覚えた。

さて、『海の駅』は、先ず瀬戸内海地域を主体として、2002年（平成14年）11月に3施設について初めて登録証が交付されスタートし、現在九州の5箇所を含めて、44箇所が登録されている。



ロゴマーク

『海の駅』の展開は、国土交通省地方運輸局と各「海の駅設置推進会議」が中核となった取り組みである。瀬戸内海9、近畿7、兵庫5、東日本18の駅が登録され、本年9月15日には九州地区で、海の駅「ふくおか・マリノア」、「ながさき」、「ながさき・でじま」、「ごとう・うくじま」および「あまくさ」の5駅が登録され、現在に至っている。

これら『海の駅』は、プレジャーボート等で誰でも、いつでも気軽に安心して立ち寄り、利用するための係留施設やサービスが充実しているマリナーである。各地域の海洋資源を活かした多様なマリナーレジャーが体験でき、豊富な観光資源が充実している。今回訪ねたサンセットマリナーと出島ワーフは、お奨めできる素晴らしい『海の駅』である。（マリナー・ビーチ協会会長 松尾道彦）

皆さんのご意見・ご感想を
2006年新年号にお寄せ下さい！

JN協会は2006年4月に発足5周年を迎えます。そこで編集部としましては、理事長はじめ役員各位、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしています。

- 1、2006年、観光にかける私の夢
- 2、観光立国推進への提言
- 3、観光・都市再生・環境に関する話題

600字前後、できれば今年末か来年1月5日までに編集部までお寄せ下さい。（白澤・加納）

スポーツと観光

スポーツと観光は、深い結びつきがある。この情報紙では、2005年7月号で鈴木昌・Jリーグチェアマンの「観光に役立つサッカー」という題での講演要旨をお伝えしたのをはじめ、白澤照雄・JN協会事務局長の「テニスを通じた交流」をテーマに3回連載した。

今回からは「スキー」を取り上げる。筆者は、高校時代に秋田大会で優勝しインターハイにも出場した、スキーの世界では知られた竹内カンナさん。JN協会会員である。白い世界を求めて、北海道へはオーストラリア、ニュージーランドなどから外国人客が訪れるなど、スキーと観光の結びつきは深く、地域振興にも繋がる。

白銀の別世界に誘う

スキーを楽しむ (1)

JN会員 竹内 カンナ

白銀の山、青い空――。スキーは、ゴミゴミとした灰色の都会の住人を別世界にいざなってくれる。滑ることそのものも楽しいが、自分を普段の生活から切り離すことができるのがスキーの魅力だ。

10年ぐらい前まで、世はスキーズームだった。金曜夜や土曜朝の上越新幹線の自由席は立錐の余地もないほどのぎゅうぎゅう詰め。貧血を起こして倒れる人も出る始末。車なら朝5時に出ないと渋滞に巻き込まれ高速道路で200キロ先のスキー場に行くのに5―6時間掛かるのは当たり前。スキー場に行くまでにこうした試練が待っていた。

だがスキー人口の減少で、近頃はずいぶん楽になった。スノーボード人口は増えているが、交通機関の混み具合で推察する限り、スキー人口とスノーボード人口を足しても以前のスキー人口には遠く及ばないようだ。リフトの高速化や4人乗りの普及で、待ち時間も以前に比べるとかなり短くなったのも古くからのスキーファンには嬉しいことだ。

スキーといえば、斜面を上から下に滑り降りるアルペンスキーを思い浮かべる人が多いと思うが、ここ数年、林野を散歩する感覚のクロスカンントリーやテレマーク・スキーに興ずる人も増えてきた。ただ日本には、まだ、こうしたスキーを楽しめるコースが少ないのが現実だ。

雪上のサーフィンのようなスノーボーは、この10年、若者を中心に急速に普及した。はじめはスキーヤーとスノーボーダーはお互いにどっちに滑って行くのか予



母たちと。カナダ・ウイスラーで

測しにくく衝突事故がよく起きた。スノーボーを禁止するスキー場も多かった。今はボーダーを排除してはスキー場の経営が成り立たないこともあってスキー場全体がスノーボー禁止ということとはなくなった。スキーヤーで、スノーボーを試みる人も増えている。わたしもスノーボーで、新雪を滑ってみたいと思うのだが、日本のスキー場はほとんどのコースを堅く圧雪してしまうため、いまだにスノーボーに手を付けるに至っていない。

「小の字」「御の字」―日本語は難しい

副理事長 橋元雅司 (元国鉄副総裁)

日本語は難しいと、外国人はいう。例えば「小の字」のつく言葉で単に大きい小さいというのではない使い方がいろいろある。小石とか小枝というのはわかるが、小体(こてい)なつくりという



日本人でも若い人はたいがい首をかしげる。小体とは暮らしや住まいが小じんまりと慎ましい様をいうのだが、そこに貧乏くさいイメージはなくて、むしろ粋な感じがする。小体なつくりというと、熟年の人は小さいけれども小じかっりとした小粋な小料理屋などを思い浮かべる。

小がついてイメージアップするのと、逆にダウンするのがあるのも、面白い。アップする例としては「小気味がよい」「小ざっぱり」「小綺麗」といった使い方、逆にダウンするものとしては、「小金」「小器用」「小細工」「小手先」などなど。小がついて意味が違ってしまうものもある。「小町」といえば「小野の小町」だが、これが一般名詞となって、「千住小町」とか「白金小町」と呼ばれる。町に小をつけるだけで、どうして美女になるのか、ちょっと不思議である。

ところで長い間「小手をかざす」とか「小耳にはさんだ」「小首をかしげた」さらには「小股の切れ上がったいい女」という言葉の意味がよく分からなかった。あるとき、この場合の小というには耳や首や股にかかるのではなくて、「かざす」「はさむ」「かしげる」「切れ上がる」の方にかかるんだと解説されて、やっと疑問が解けた。「小脇にかかえる」「小鼻が開いた」なども「ちょっと開く」ことだといわれると、なるほどと合点がいく。

「御の字」もやっかいだ。「なにになら御の字だよ」というのも、どうしてなのかよくわからないが、「御」の字は普通に身近な敬語、丁寧語として「おん」「お」「み」「ご」と発音を変えながらよく使われている。しかも、おみこし(御神輿)とかおみくじ(御御籤)というような、ダブルで使ったり、おみおつけ(御御御付け)と味噌汁をトリプルで丁寧にいったという説もある。いずれにしても日本語は難しい。



北海道の旅文化

立大観光学部4年 田久保万里夫

JN協会の北海道支部誕生に当たって、北海道についての話題を一つ。



私はこの夏、北海道をバイクで一周してきた。バイクに乗り始めた当初からずっと北海道を走ってみたいという想いがあり、その夢が実現したわけだ。実際に走ってみるとその爽快感たるや想像をはるかに超えるものであった。中でも国道232号線（通称オロロンラ

イン）は、右には海岸線、左には原野といった風景が延々と続く道であった。ガードレールや街灯もなく、ここは本当に日本なのか?!とってしまう。

このような道を求めて、北海道には毎年夏になると多くのライダーが訪れる。バイクだけでなく、自転車でする者（チャリダー）や徒歩での者（トホダー）までが現れるのが北海道なのだ。私が出会った者の中には、北海道を長いこと旅していたら、いつの間にかとある村の村民になってしまった人や、38歳で脱サラし、人とは違うことをしようと思い、毎日ウサギかパンダの着ぐるみを着ながら、徒歩での日本一周を試みている人などがいた。北海道はとにかく色々な旅人が集まる“聖地”なのである。

北海道にはそうした旅人が集まる文化が根付いている。例えば、北海道にはいたるところに『ライダーハウス』や『とほ宿』という安宿が存在する。名前を聞くとライダーやトホダー限定かと思うかもしれないが、決してそんなことはない。値段は一泊無料から、高くてもせいぜい三千円で泊まることができる。寝袋さえ持っていけば宿泊費ゼロで旅することも可能なのだ。また、ライダーやチャリダーが道ですれ違うとき、見知らぬ人でも手を挙げて挨拶するという習慣がある。これは車や電車で旅している人にはわからないものであるが、バイクで北海道を旅している仲間である！という、ある種の連帯感から生まれるこの習慣には、言葉では言い表せない感動がある。

このような旅文化が根付いているのは、私が知る限りでは残念ながら北海道しかない。日本人の国内旅行における旅行形態の大半が、日帰りか多くても二泊程度であるため、こうした旅文化が育たないのは仕方のないことかもしれない。しかし、現在まで行われてきた観光開発や新幹線などの交通政策が、大人の目線から大人のために行われてきたもののようには思えてならない。日本中にもっと若者が旅をしやすい環境が整備されれば、旅好きの私としては嬉しい限りである。

日本国際観光学会に参加して

立大観光学部4年 松永 綾子

先日、日本国際観光学会に参加しました。観光を専門に研究なさっている先生方だけでなく、観光業界でご活躍されている方々の研究発表も聞くことができ、とても刺激になりました。

私は「観光が地域の活性化に与える影響」について興味があるので、そのような研究をなさっている先生方の発表を中心に聞いていました。空港や教育など、事例として挙げられた地域によって、その地域が何を観光に繋げようとしているかというのは様々であり、企業や自治体だけでなく、時には地域住民との連携も必要なのだと改めて感じました。

このような学会に参加するのは初めてでしたが、様々な立場の人が、自分の立場からみた観光についての考えを出し合い、これからの観光について共に考えていくということに共感しましたし、充実した時間を過ごすことができたと思います。最後に、残り少ない学生生活ですが、今回の学会で得たことを今後の自分の研究に生かしていけたらと思います。

あんな話 こんな話

東山魁夷記念館が市川市に誕生

日本画の大家である東山魁夷記念館が、2005年11月12日（土）、千葉県市川市中山の同画伯自宅近くに誕生した。ここで同画伯が約50年間暮らし、多くの作品を世に出している。この記念館は留学し、その後たびたび訪れたドイツの民家をモチーフにしている。

館内には1階と2階に展示室があり、1階部分は東山画伯の業績を年代別に紹介したパネル、愛用した絵の具などゆかりの品々や身の回り品を、2階部分は市が所蔵する絵画などを中心に展示。



2階には、試作や未完の「冬の旅」、戦火で焼失した「スエズ紀行」の下絵など未公開の資料も。

◆開館記念特別展「東山魁夷の軌跡」

期間：11月12日（土）から平成18年1月15日（日）。
開館時間：午前10時から午後5時（入館は午後4時30分まで）

特別展の入場料は、一般800円、高校・大学400円。中学生以下は無料。

月曜（休日の場合は翌日）、12月28日～1月4日まで休館。

問い合わせは、まちかどミュージアム推進課

TEL 047-334-1108 もしくは同館（047-333-2011）へ。

☆交通は、JR総武線「西船橋」「下総中山」の駅北口から「市営霊園」行きバスで約10分。

エコツーリズムとプロプアーツーリズムを語る

JN協会は発足以来、観光問題を中心に昼食研究会を開いている。今年は「観光立国セミナー」のテーマのもとに、斯界の権威を講師に招いているが、9、10回目の発表を簡単に紹介したい。全文は、前8回分とあわせ改めて小冊子として、まとめる予定。

環境・自然を大切に

21世紀はエコツーリズムの時代

ニュージーランド政府観光局前局長・小林天心氏

小林氏は旅行業界で長く活躍され、退職後も、観光問題なかでもエコツーリズムの推進に力を注いでおられる。JN協会の会員でもあり、立教支部で学生と勉強会を続けている。題名は『日本のエコツーリズムとNPO日本エコツーリズム協会の活動』。

エコツーリズムを簡単に言うと「自然環境と観光の共生を目指す」ことであり、「旅人は自然に対する感謝の気持ちを持って、地球に優しく」あるべきとしている。

具体的には、10～15人の少人数で、ゆとりを持ち静かに、自分の足を使い、しかもシンプルな旅である、という。観光・旅行は、ともすれば環境破壊やゴミの放置、買春、などのマイナスを生む恐れがあるが、これからの旅行業界は「これら負のインパクトをミニマサイズする努力が必要」と強調する。

こうしたエコツーリズムを推進する母体として、1998年に発足したNPO法人『日本エコツーリズム協会』（JES）がある。小林さんも、理事を務める。世界的にみると、カナダ、米国のアラスカ、北欧諸国など、エコツーリズムの概念が根付いてお

り、文献も豊富。引き換え日本は後進地域であり、JESの活動が期待されるゆえんである。

最貧困層の援助に役立つ

プロプアーツーリズムを進めよう

高寺奎一郎・立教大学非常勤講師

国際観光問題の権威で立教大学の非常勤講師である高寺奎一郎氏は、ある数字を見せながら話を始めた。数字とは、冷戦終結後、減少を続けてきた世界のODA総額が、増額に転じているという。米国政府が、9・11テロ以降、貧困がテロの温床との認識を強め、貧困削減のためにODA予算の大幅増に転じたのが契機とのこと。

私は、観光が、その大きな力になると考え「プロプアーツーリズム」を訴えている。観光関連の中小零細事業体へのマイクロクレジット資金の投下、観光産業での絶対貧困層の雇用、観光産業の現地調達を貧しい人たちのプロダクトに拡大するなどである。

豊富な内容を短時間に聞いたので消化不良の感も残ったが、詳しい内容を理解したい方は、高寺講師の著書「貧困克服のためのツーリズム」（古今書院2800円）のご一読を！（文責・加納）

C O L U M N

災害に遭ったら・・・

昨年暮れのインドネシア・アチェ地方やタイ・プーケットの津波、8月のニューオーリンズのハリケーン・カトリーナ襲来、10月のパキスタン・カラコルム地方の地震などの大きな自然災害が世界を恐怖のどん底に陥れている。例外に洩れず、日本列島も大型台風がいくつも通り過ぎ、各地に甚大な被害をもたらした。こうした自然災害予防は手の施しようがないが、それでも普段の準備と訓練次第では、その被害も多少は軽減することができる。一方、人災や不注意による災害には、ことさら的確な判断、すばやい初動、果敢な脱出などが求められる。それには、平素からの用意周到な準備と迅速な対応が欠かせない。

いまから十数年前に団体旅行添乗員として、海外でホテル火災に2度も遭遇した。いずれも研究熱心な教育者の団体であったために、出発前に事故や災害にも万全の準備を整えた。「ホテル火災の際は・・・」などと事前にはやや現実味のない説明であったが、緊急連絡網まで決めて出かける前の用意は周到であった。第一回目は、火災警報によって全員を叩き起こし、ホテルの外へ脱出するまでの時間のかかり過ぎは、大火だったら大事に至ったであろうとの反省が残った。二度目の明け方のボヤでは、連絡網を通して全員がすばやく避難して鎮火作業が終わってから、人員点呼して初めて団員のひとりが足りないことが分った。しばらくして恥ずかしそうにそのひとりが現れた。けたたましいサイレンや、周囲の雑音にもまったく気がつかずぐっすり眠り込んでいたようだった。相部屋の仲間はすでに先に避難したと思い込んでいたと話してくれた。

鉄火場では、いくら訓練を積んでも混乱は想像を遥かに超える。結局日頃の訓練、心の準備、冷静沈着、決断力、行動力はもちろんであるが、つまるところ本人の細心な注意力や勘、センスが伴わないと災害から免れることはできないと改めて痛感した。（近藤）

上野を超えた旭山動物園に行った

JN会員 杉 行夫

旭川には最近、東京の上野動物園の入場者数を超えたことで有名になった「旭山動物園」（今年の入場者数は4月～11月初旬で171万人）がある。札幌でのJN支部設立総会の帰途、当協会団体会員の荒井建設㈱を表敬訪問した折に訪れた。

この動物園の場合、「もぐもぐタイム」に合わせて見るのが一番。ここのホームページに「もぐもぐタイム」について「いろいろな動物の食べる姿を通して、動物本来の能力を見ることができます」と記述している。

『あざらし』館では手でさわれるところに垂直に立つチューブ水槽を、あざらしが上下する姿を見ることができる。夏場は木登りが売り物の『オランウータン』館は、寒さのため休業。『ペンギン』館では水の中を“飛翔する”ペンギンを見ることができた。地上では鳥らしくないペンギンだが、水中ではまさに鳥であることが実感できる。なお、ペンギンの園内散歩は、園内が根雪に覆われないと行われない。雪の無い道はペンギンの足に良くないからだ。

『ほっきょくぐま』の「もぐもぐタイム」は午後2時。5分前にはオスの白熊は餌と関係なく水に飛び込む。眼前で泳ぐ大きな白熊の迫力には圧倒される。泳いでいる時、灰色をしたウチワの様な白熊の足の裏を見ることができた。白熊の泳ぐ姿には見る者全てが歓声を上げた。

見せてやる立場から、鑑賞者（消費者）に楽しんでもいただく演出で成功しているように感じた。

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年に創刊され、ホテルオークラ、帝国ホテルなど全国のシティホテル110館約50,000室の客室に常備されている日米対訳の文化情報誌です。

2005年度版は編集・デザインを大幅に刷新。表紙は気鋭の合羽刷（版画）師、西岡文彦氏による作品としました。英文も基本的に全文対訳とし、学校教材としてもより利用しやすくなっています。



特集では、世界遺産に登録された「熊野三山」に焦点を当て、歴史・風土・文化、そして現在の姿を、豊富な写真を中心に紹介しています。

さらに、木村尚三郎氏による巻頭メッセージ、金子務、鎌田東両氏による特集エッセイは、これまで以上に読みごたえのある記事となっています。

1部2,000円（送料別）で購入できます。

お問い合わせは（株）ジャパン・ナウへ。

電話03-3465-5826

FAX03-3465-5254

道の駅 日本昭和村

JN会員 堤 るり

懐かしい昭和30年代を体験できる日本昭和村は、岐阜県美濃賀茂市に平成15年にオープン。名誉村長は中村玉緒さんで、岐阜県の人気スポットになっている。園内に入ると、どんぐりの森、茶畑、桑畑、ホタルやメダカの生息する溪谷など、昭和30年代のなつかしい里山風景とともに、なつかしのおもちゃや伝統芸能、郷土料理など昭和30年代へタイムトリップできる。



園内は、四季の花々や木々が目を楽しませてくれる。そんな風景を楽しめるように里山バス「れんげ号」・「どんぐり号」が園内を一周してくれる。中でも手作り体験はたくさんのプログラムがある。クラフト体験は、竹とんぼ、お手玉などなつかしいおもちゃつくりの他に手作り機を使って、30～40分で気軽に織物を作る体験等もある（600円～）。食の体験では生クリームからバターを作り（500円）パンにつけて試食したり、そば打ちでは、そば粉を練り伸ばして切ってその場で茹でて試食できる（2名1,000円）。いずれも1時間以内で体験できる。

また季節が限定されるが、農業体験では季節野菜の収穫や、田植え・稲刈りなど、四季折々の農作業の体験もできる（30分～2時間）。デイキャンプではマッチの使い方から、火のつけ方、薪のやり方。飯ごうによる炊飯体験もできる（約2時間）。これからの季節は、1日1組限定のお得な団体プランがある（大人のみ）。入園料＋自家製どぶろく＋里山バス1日乗車券＋お食事・豆腐御膳のパック。ひとり2,100円でゆったりとした冬の1日を過ごすことが出来る。

入園料は、大人800円・小人400円。営業時間9～18時（3月～11月）10～17時（12月～2月）。年中無休。駐車場は無料（乗用車3000台大型バス50台）。問い合わせ：TEL0574-23-0066（平成記念公園管理事務所）

[会員募集]

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員（1口5千円）、団体会員（1口5万円）

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階
JAPANNOW観光情報協会（電話03-5304-9500）
へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2006年新年号への個人、団体会員の投稿を歓迎します（400～500文字程度）。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2006年1月17日。締め切りは1月7日。

NPOから提案します

ジャパンナウ観光情報協会への期待 その23 「日常」と「非日常」の意識の接近現象

JN協会理事 寺前秀一

観光法制度の中心概念は「観光」であるが、法制度上明文で定義されたものは存在しない。学説上は最大公約数的には、日常生活圏を離れて非日常体験をすることとするものに代表される。「日常」「非日常」の区分は元来明確に区分されるものではないが、余暇時間の増大及び一日交通圏の拡大は、この不明確性を更に増加させている。「非日常」が常態化すれば、「日常」と「非日常」は更に不明確となり相対的なものとなる。

この「日常」「非日常」の相対化現象は、「住んでよし、訪れてよし」の地域作りという言葉に端的に表される。近年の日本の住むは日常、訪れるは非日常の象徴であり、両者が相対化していることが認識されている。交通機関の発達にはわが国一日交通圏を拡大させ、これまでの非日常体験が簡便に行えるようになってきている。このため非日常とされてきた体験自体が非日常とは認識されなくなっている。

余暇の持つ語感も変化してきている。余暇は勤務時間に対比される時間であるが、中高年を中心として勤務時間よりも余暇時間が長くなると、余暇の字句自体が感覚的にそぐわなくなっている。食事、栄養、カロリー補給との認識は薄まりつつあり、それとともに身近な飲食施設も観光施設化してきている。観光としての食事が日常化することにより観光のもつ非日常性が変化してきている。旅行における宿泊及び食事は、旅行者に休息と満足感をもたら

すことが期待されてきたが、睡眠、食事は日常生活でも行っている行為でもあり、旅行地における宿泊も日常生活の継続の上に成立するようになってきている。日常生活に観光が溶け込んでくれば、観光法制度もその変化に対応しなければならない。観光資源も変化し、フラワーツーリズムの提唱等日常景観までが観光資源としてとらえられるようになってきている。公共施設が安全、環境に配慮して設置されると同様に、観光(景観)に配慮して設置されることが常態化すれば、観光基本法の指針性は担保されるわけであるが、同時に常態化することにより、観光の持つ非日常性の意識が薄まり、観光概念の再構築が必要となる。

★下関(しものせき)市 下関さかな祭

【日 時】11月23日(祝日) 時30分から13時まで

【場 所】下関漁港

水産都市・下関の一大イベント。フグをはじめとした魚介類や水産加工品が市価よりも安い値段で即売されるとあって、多くの人出でにぎわう。無料でふるまわれる名物、1万食の「ジャンボふく鍋」も大人気。

【問い合わせ】下関さかな祭実行委員会

電話：0832-22-3333

★美祢(みね)市 第30回美祢市走ろう大会 in MINEサーキット

「日時」平成18年1月29日(日曜日)10時スタート

「場所」MINEサーキット内

サーキット場がマラソンコースに！12月9日締め切り。問い合わせ、美祢市走ろう大会事務局

電話：0837-52-3310

あめりか観光通信 その2 ～サンタフェ～

“不思議”多いニューメキシコ州・サンタフェ

ニューメキシコ州は今、ひそかな人気を集めている州です。州都はサンタフェですが、ここには国際空港がなく、多くの人はアルバカーキに到着して、そこから北へ車で約1時間のサンタフェに向かいます。(ところでこのアルバカーキの英語のスペリングは大変難しく、アメリカ人でも正しく書けるのは少数とか。)

日干し煉瓦でできた建物が特徴的な、小さな居心地の良い街にはギャラリーやジュエリーの店舗が並び、ゆっくりと歩いて回るのも楽しいところです。ジュエリーの中心は青いトルコ石(ターコイズ)。実に様々なデザインと色の微妙に違う石でできたイヤリング、ネックレス、ブレスレットなど日本でも今大流行しています。

サンタフェからさらに北へ1時間の所にあるのがタオス・プエブロ・マンションで、現在でもネイティブ・アメリカンが居住している世界遺産です。

日干し煉瓦でできた集合住宅は現在の基準から言えば決して便利な生活を送るといふ訳にはいきませんが。

サンタフェには様々な不思議があり、チマヨという小さな町の教会の中には地下から湧き出ている砂があり、その砂は人々の怪我の傷を治してくれる奇跡の砂と呼ばれています。(写真はチマヨの教会)



また、サンタフェのロレッタ教会には支柱を使わずに床から天井まで作られた螺旋階段があり、これもこの地域にあるいくつかの不思議の一つに数えられています。

世界遺産、不思議な現象や建物、ジョージア・オキーフに代表されるアーティストの美術館など見るべきものがとても多く、観光地としてお勧めです。しかも全米屈指のシェフによるレストランもあり、すべてに満足していただけるはずですよ。

(JN協会会員 井上嘉世子)

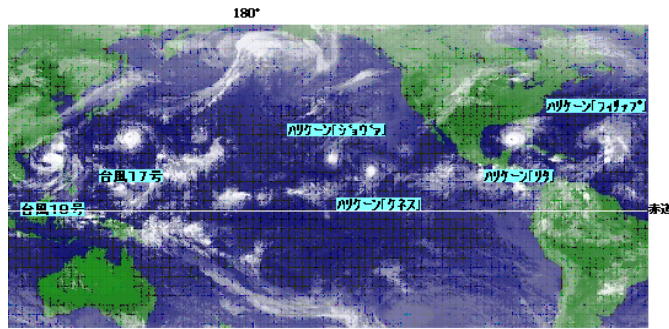
気象とお天気の話

「ハリケーンと台風」

(財)日本気象協会 林 英美

今年、大型ハリケーン「カトリナ」が米国ルイジアナ州などを襲い、その後も「リタ」、「ウィルマ」と、相次いで大きなハリケーンの襲来がありました。

日本には台風が襲来します。ハリケーンと台風とは元来同じもの（発達した熱帯低気圧）ですが、その呼び名は地域によって異なります。台風は北西太平洋（北半球の東経180°より西）で発生したもの、ハリケーンは北東太平洋（北半球の東経180°より東）、南東太平洋（南半球の東経160°より東）および北部大西洋で発生したものです。2005年には、メキシコ湾、カリブ海から大西洋で発生した熱帯暴風雨（台風と同基準、ハリケーンより1ランク下のものを含む）の数が過去最高の23個（10月28日現在）となり、これまでの記録21個（1933年）を更新中です。日本でも2004年に上陸した台



ずらりと並んだ「熱帯低気圧」（2005年9月22日）

風が10個と、それまでの記録6個（1990, 93年）を大きく更新改めて自然の脅威を感じます。ちなみに、「ウィルマ」は中心気圧が882hPa*まで発達し、ハリケーンの観測史上最も低い気圧を記録しました。

今後もハリケーンや台風の発生期に海水温の高い状態が続くと、これらは大きく発達し、しかも勢力が衰えないまま陸地に近づくことが予想されます。

*気圧を表す単位は、日本では1992年12月にそれまでの「mb（ミリバール）」から「hPa（ヘクトパスカル）」に変更（数字の値は同じ）されました。

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は別刷ご参照)

- 名誉顧問** : 松山善三 (映画監督)
- 理事長** : 松尾道彦 (日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁)
- 顧問** : 丹羽晟 (前理事長、日本空港ビルディング相談役)
- 副理事長** : 白澤照雄 (JN協会事務局長)、岡村進 (小田急電鉄顧問)、橋元雅司 (元国鉄副総裁)、橋爪孝之 (株JALUX相談役)、大島慎子 (ドイツワイン基金駐日代表)、小竹直隆 (元JTB専務)、須田寛 (東海旅客鉄道相談役)
- 支部長** : 片山文彦 (新宿支部)、水野卓哉 (北陸支部)、田久保万里夫 (立教支部)、長尾亜夫 (九州支部)、須田寛 (中部支部)、岩田弘三 (神戸支部)、坂本真一 (北海道支部)

【団体会員】(2005年11月15日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、岩田建設(株)、(株)エスシー・マシーナリ、(株)HKIアクシス、(株)大林組、隠岐の島町 (島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、国光施設工業(株)、佐川サポートサービス(株)、三協アルミニウム工業(株)、(株)三普旅行社、清水建設(株)、(株)ジャルセールス、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、総合パーキング建設(株)、セントラルリーシングシステム(株)、第一交通産業(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成ユーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中部電力(株)、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルディング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、ネスレジャパングループ、箱根町 (神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)ビッグウイング、福岡空港ビルディング(株)、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、(株)フィールドサービス、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、ホテルマリックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)ミルックス、(学)森谷学園、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW

観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)95

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長：加納 隆(JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

JN協会7番目の支部が北海道に誕生した。札幌での設立総会、それに続くフォーラムには、310人もの参加者があり、協会5年の歴史でも特筆すべき盛会となった。今をときめく武部・自民党幹事長のメッセージもいろいろを添えた。共催の北海道観光連盟、なかでも小野寺事務局次長の万全の対応、気配りには、頭が下がる。また、団体会員でもある『HKIアクシス』の山内顧問にも、感謝申し上げる。

さて、今月号は北海道特集の色彩が濃いですが、もう一つのポイントは最終面に「気象・天気の話」の連載を始めたこと。当協会の松尾理事長が、気象協会の会長でもあることから、お願いした。「えっ！へえー！」といった話が續出するはず。乞う、ご期待！である。(加納)